

令和二年度 市民文化祭を終えて

コロナ禍中の展示会

中谷 時男

令和二年度の市民文化祭は、多くの行事が中止される中、習美会は、文化ホールギャラリーで恒例の絵画展を開催した。

感染予防の厳しい仕様の中、二十数名の出品者と六十名の来場者の小さな展示会であったが、出品者は皆満足しており、無事展示会が開催されたことに



意義を感じている。

また最終日(十一月一日)にはフラフエステイバルが開催され、ホール全体を賑やかに盛り立ててくれた。

コロナ禍中の文化祭を終えて

ケアラロゼラニ

宮川 恵子

毎年秋に開催される市民文化祭。今年は世界中がコロナ禍の中、日本も千葉そして習志野もみんなが禍中、そんな状況下での開催となりました。開催するべきか辞めるべきか繰り返し考え、相談し、出した答えは、無理はせず可能な限り開催、動いて行きたい。前を向いて行きたいと言う結論でした。習志野市芸術文化協会、の後押しがなければ決して実現はなかったと思います。感染予防、どうしていくことが良いのか。何の参考文献もない中、むやみに怖がらず、行きすぎるくらいは予防をしよう、そんな思いで準備を重ね、結果、感染者を出す事もなく無事開催出来ました。通年のようには行きませんが温かい発表



の場となり、沢山の感謝に溢れた日となりましたが、何もなかったからよかったですと言う言葉は、常に頭の隅にはありました。どんな状況でも出来ることはある、そして人と人との繋がりを強く感じることでできる文化祭開催となりました。

当たり前と思っていた日常は当たり前前ではない、色々なことが大切に思える学びともなりました。

開催にあたり携わっていた方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。まだまだ予防が必要なのは世の中ですので、皆様お体ご自愛下さいませ。



習志野俳句会

大且かすかな風に水尾二つ

藤原 明美

床の間に吉祥天女日脚伸ぶ

横尾 かな

湯豆腐やうすむらさきに湯気の立つ

松本 恵

初空や地球は自転公転中

真鍋 元祿

あらたまの達磨の片目塗りにけり

松本 武

晩鐘を撞いてみやうか寒椿

野村 昌代

雅とはあいまいのこと都鳥

櫻井 真理子

数珠玉や丸太を渡すだけの橋

北村 操

かじかみし手に鯛焼の温みかな

新里 美智子

生真面目に生きて今年のおなづな粥

鈴木 靖子

東洲斎頌で言祝ぐお元日

矢田 涼

白萩のこぼれては地を鎮めをり

中村 世都

事務局だより

コロナ禍にあり、終息の兆しも見えないまま新しい年を迎えております。活動がまだ思うように出来ない中ではあります。状況を見ながら、ひとつずつ事業を進めて行きたいと考えております。

春の芸術祭は四月十六・十七・十八日に例年とは異なり一部内容を縮小し感染対策を徹底しながら実施する予定です。皆様の文化芸術活動が、以前のように活発になる時期が早く来ますことを願っております。(三戸 良子)

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大・様々な災害も多く発生し、国民の生活に寒風吹き荒れ、脅かされ、心のゆとりが失われております。その様な中でも自然界では、梅の花が香りを放ち、福寿草が芽吹き、春の訪れを告げております。ご寄稿頂いた原稿を通して、心豊かに、この文化を守り育てて行こうとの力強さを感じ取れ、芸術文化の火が消えることはないことを確信出来ました。この試練を新たな力として、芸術文化を紡いで行きます様、折りながら五十五号をお届けいたします。(小笠原 仁仙)

訃報
芸術文化協会発足時より長年にわたり事務局長としてご尽力頂きました松本都史子氏が令和三年二月二日にご逝去されました。心からご冥福をお祈り申し上げます。

習志野市芸術文化協会事務所
〒二七五-〇〇二六
習志野市谷津一-一六一-一
習志野文化ホール内
TEL & FAX 〇四七(四七五)六八二一